

国道309号の整備について

【担当省庁】国土交通省

市町村における取組

(現状・課題)

・国道309号は、吉野地区の主要な幹線道路として、周辺住民の生活の利便性を高め、地域振興を図る上で重要な役割を果たしており、紀伊半島アンカールートである京奈和自動車道、国道169号・国道168号を繋ぐことのできる数少ないルートとして、また南海トラフ地震等の大規模災害発生時の迂回路としての機能も併せ持っていることから、早期の整備促進が期待されている。

・奈良県道路整備基本計画では、国道309号を、南部・東部地域を縦断する骨格幹線道路ネットワークとして位置づけられているが、基幹道路の意義である「企業立地の推進」、「観光の振興」、「生活利便の増進」、「安全・安心の確保」において、十分な役割を果たせていないのが現状である。

・丹生バイパスの完成により、利便性が格段に向上し、京阪神地域からの来訪者も増加する中、未だ黒滝村笠木地内及び天川村中越地区から上北山村天ヶ瀬間では狭隘区間や危険箇所が数多く、区間内にある白倉トンネルは3mの高さ制限により車両の対向も行えないため、抜本的な整備が望まれる。

川迫ダム下方の毛敷谷付近の狭歪区間の拡幅が成れば利便性の向上により、行者還トンネル西口の登山口などを含め、利用者増が見込まれる。

・大淀町岡崎交差点の交差点改良も含め、未改良区間の早期整備を行うことにより、県北部地域、京阪神地域との地域間交流が促進され、吉野地域の主産業である林材業や観光業等の産業振興や、防災、定住促進等の地方創生に向けた取り組みにも力を発揮することが期待されている。

・天川村、上北山村及び下北山村は、世界遺産「大峯奥駈道」の麓に位置することから、3村が連携し、日本風景街道として広域的な整備を検討しているところである。また、紀伊半島における国道並びに主要地方道等の道路ネットワークの構築は、防災、観光、産業などに対する地域間交流が促進され、広域的な地域の活性化につながるものである。

このため、天川村では、みたらい渓谷交通量調査、交通渋滞解消のための警備員配置や車両を駐車することが出来る多目的広場の整備を予定している。



国にお願いすること

国道309号は、救急医療を支える「命の道」とともに、県南部地域の産業や観光振興を支える道路であるため、社会資本整備総合交付金等の道路整備にかかる必要な予算確保をお願いしたい。

【担当部署】 奈良県市長会・奈良県町村会